

週日の説教

金 大烈 神父 2010年8月18日(水)

《イエス様に恵みを求めましょう・(自分の弱さとの戦い)》

主の平和

今日の福音(マタイ 20・1-16)も結構有名な話ですよ。そして私達はよく聞いて分かっている話です。

さあ、質問させていただきます。イエス様を信じて後悔した事がありますか。「信じなければよかった」まで思わなくても「ああ、何故信じたのか」と後悔した事のある方は手を上げてください。(数人の手が上がりました)それでは逆の質問をします。「イエス様を信じて本当に私はよかった。幸せだった。一点も後悔する事はなかった。」と思われる方は?(大勢の手が上がりました)

さあ、後悔した事のある人も何人かいらっしゃいましたし、殆どの人は後悔はしなかった。イエス様に出会えたことを感謝しているということですね。

では、後悔した経験のある人のその理由は何でしょうか。不便さでしょうか。「人を憎む事が出来ない」そういう教えのために、不自由さを感じて後悔したのでしょうか。普通には全然罪にならない事が、信仰を持つてからは教会の秘蹟を受けなければならないし、悔い改めなければならない。そういう事で後悔したのでしょうか。どうしてでしょうか。

社会の一般的な人達のように、自分勝手に全部やりたいことをやりながら、生きてらよかったのに、「何故こんなに早めにイエスという名前に出会ってしまって、このように不便な生活をするはめになってしまったのか」という後悔でしょうか。

逆に「誇りを持っています。」とおっしゃった方はその誇りに相応しい振る舞いとか、相応しい心を見せているのでしょうか。誰がみても「この人はやっぱり違う、信仰って不思議なものだ。この人をみたらイエス様を感じられる。」というような生き方を表しながら今までやって来たのでしょうか。

二つの質問の両方に、私達ははっきりと「自信がある」とは言えないと思います。信仰を持っていても死ぬ時まで、ただ、自分がすぐに陥る弱さの傾きを減らしながら生きるのが、私達の信仰の道かも知れません。修道生活をする者も司祭という名で生きている者も、いつも自分の罪のために痛んでいます。しかし、その痛みをただ痛みとして過ごすのか、ちゃんとその痛みに向きあって過ごすのか、その痛みを乗り越えようとして頑張っているのか、それによって別けられると思います。私達は今の自分の状態をよく見通し認めながら、正しい道に行こうとするその心、そして、実践力が何よりも必要ではないかと思います。

今日の福音をただ気軽に読んでしまうと、このぶどう園の主人が常識的ではなく、ちょっと悪いのではないかと思ってしまう流れです。そうでしょう。

朝早く来て仕事をしたのに1デナリオン。そして午後、殆ど仕事が終わる頃に呼び掛けられた者に

も1デナリオン。そうしたら一日中働いた者は腹が立ちます。もちろん1デナリオンもらう約束で働いたとしても、後で1時間も働かない者にも同じように、1デナリオンあげるのは腹が立ちます。皆様だったらどうします。

さあ、私が簡単に説明しましょう。「私は幼児洗礼を受けて、今まで、毎日曜日ミサに与って来ました。」しかしある人は、70を過ぎて一ヶ月前に洗礼を受けて、喜びに満たされて死んでしまう。「何でしょうか、これは！」

このような事にも腹を立てる必要のないことをイエス様がはっきりおっしゃっています。福音の中ほどに、このように書いてあります。『誰も雇ってくれないのです』これは大事な言葉です。何の仕事もしない人を、わざわざイエス様がほめるわけではありません。広場で立っていた人々は「雇ってくれる者がいなかったの、私はこんな状態になっています。」と言っているわけです。ということは、誰も今まで「イエス様を信じましょう。」と誘った人がいなかったと同じ話しです。「だから私はイエス様を知る機会が全くありませんでした。」と言う話しと全く同じです。その人をみて「今になってこんなに遅い時間にやって来た者が、何故このように信仰が深くなって、そのような生き方をするのか。」と腹を立てる人のほうが愚かな者になります。

皆様よく考えて見ましょう。イエス様はこの言葉を基準として、いつもよく話されますよね。「後と先、先と後、一番上と一番下」それが逆になると言う話しをなさっているのですが、これを意味するものは何でしょうか。イエス様はその内容を見ているのです。そういうことですよ。

私が本当に正しい人間かどうかは、表面的な視線とか、人々を意識して出来るものではありません。自分が客観的になっていつも自分を正しく見て、「私は本当には相応しい生き方をしているかどうか」と取り組みながら、考えなければならない事だと思います。それがために一番必要な事はなんでしょうか。それは何回も強調したのですが、「イエス様の前で一対一で話して下さい」という事です。すなわち「祈って下さい」という事です。

皆様、本当に心を込めて祈った時間はこの人生の中でどのくらいでしょうか。ある意味で70歳を過ぎて洗礼を受け、信仰深くなって祈られた人よりも、幼児洗礼の人が、今まで一生のなかで、祈った時間が少ない可能性も結構あります。形式的な祈りではなくて、心を込めて強く願う心、切に願うその心をイエス様は御覧になっています。

皆様、イエス様は面白い表現をなさっています。『わたしの気前のよさをねたむのか。』実際に妬むのが私達の弱さです。何でも無い事に、その人が誰でもいいのに、ただ私と同じ扱いにされるのが嫌な気持ちになって、その人に同じように与える人に腹を立てます。よく考えて見て下さい。こういう事を私達が冷静に受け止めて、もし自分にも否定的な何かがあったら、減らそうと努力するその心が、何よりも必要ではないかと思えます。

皆様、私達は、色々と自分の弱さをみて、がっかりする時が結構あると思えます。そして悲しい気持ちになります。けれども皆様の力で直そうと思わないで下さい。直そうと考えないで下さい。それは

傲慢です。昨日、今日、明日の問題ではありません。自分の力で直す事の出来ない自分の癖、それは“イエス様に恵みを求める”方法しかありません。神様の力を求めて下さい。「私はどうしても嘘をついてしまいます。こんな自分は大嫌いなのです。どうか助けて下さい。」率直にイエス様に言って下さい。このようにいいながら癒されて下さい。自分の意思を信じるものではありません。

ありがとうございました。